

# 甲斐市立敷島北小学校 学校関係者評価書

令和8年2月12日(木)

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

## 学校関係者評価委員会

実施日：令和8年2月12日(木)午後3時より

会場：敷島北小学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員(学校運営協議会委員)

飯野徳太郎 高橋みさ子 大館友子 長田知子 中村浩士  
学校 増坪広夫(校長) 渡邊亜希彦(教頭) 江頭祐二(教務主任)

## I 学校側から提案された内容

- ・「教職員による自己評価」「児童アンケート」「保護者アンケート」の分析結果及び課題点と改善策を示した「自己評価書」について
- ・自己評価集計結果表 児童アンケート集計結果表 保護者アンケート集計結果表について
- ・来年度の学校経営方針について

## II 協議された主な内容

- ・各項目における達成状況と改善策について
  - ①学校教育目標、学校経営、学校運営について
  - ②学習指導について
  - ③生徒指導について
  - ④地域との連携について
  - 5 学校の特色について
  - 6 創甲斐教育について

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ・教職員の自己評価、児童評価、保護者評価を見ると、校長の学校経営方針に沿って、教職員が誠意を持って日々の教育活動を行っていることがうかがえる。
- ・校外学習や技能教科などの教育活動や安全確保などにおいて、地域人材や保護者、施設や団体との連携した取り組みが積極的に行われ、教育の充実や安全確保が図られている。

### II 特徴

#### 1 教職員が一体となって熱心に教育活動を行っている。

- ・授業参観では、昨年度まで課題に感じていたことも、改善されている様子が見られ、教職員の頑張りとともに、児童たちの変化や成長を感じた。児童たちの学習に向かう意欲を高める授業づくりや行事への取り組みに、児童たちの実態に合わせた教職員の一生懸命さが感じられた。学校の特色を生かした教育活動が積み重ねられている。
- ・教職員、保護者、地域の連携により、学校の教育活動に三者が協力し合い、一人一人の児童のために行われている。学校からの積極的な情報発信によって、開かれた教育活動が伝わり、実践が積み重ねられている。

## **2 学校と保護者、地域、外部人材との連携の中で児童の成長が育まれている。**

- ・保護者や地域の方に積極的に情報を発信したり、授業や行事の様子を参観に来ていただいたり、「おやじの会」「母親の会」「地域見守り隊」「学校応援団」など、学校運営協議会にも所属する各団体の方々に教育活動に協力していただいたりしていることが、教育活動の成果や児童の成長につながっている。
- ・多くの体験的な校外学習の実施や総合的な学習の時間などにおける外部人材の活用などが積極的に行われ、児童たちが教職員以外からも多くのことを学べる環境が整っている。
- ・1年間、「あいさつ活動」に意識的に取り組んできたが、あいさつをしてくれる児童が増えてきたように感じる。お互いに気持ちのよいあいさつを心がけ、「あいさつ活動」がさらに学校を活性化してくれることを願っている。

## **3 学校の特色が生かされた教育活動が行われている。**

- ・保護者や地域が教育活動に協力する機会が多い。様々な団体が、児童の教育活動に携わっており、地域と保護者と学校が一体となって児童を育てていく環境が十分に整ってきた。
- ・運動会の全校踊りや音楽発表会などの行事への参加・参観による学校開放やホームページや学校だよりなどを通じて積極的に学校の様子を発信することにより、学校に対する興味・関心が高まっている。

## **Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと**

### **1 地域、保護者の応援態勢づくりを促進したい。**

- ・「おやじの会」「母親の会」「地域見守り隊」「学校応援団」など今までの地域や保護者と学校との連携をさらに深めていくために、それぞれが主体的に児童たちのためにできることを考えていく機会を検討していく。

### **2 家庭学習の充実や学力向上を図るための取り組みを提言したい。**

- ・授業の工夫や国語・算数などの授業の楽しさはアンケート結果からも十分に感じられる。さらに、家庭学習の充実や基礎基本の定着をより一層図っていくために、家庭からの協力を得た生活習慣への取り組みが必要になってくる。学校からも運営協議会からも提言ができるような活動を考えていきたい。

### **3 学校と地域が連携して、あいさつのできる児童を育成したい。**

- ・日常的な見守りやあいさつ運動などにより、児童のあいさつの様子も少しずつ変化を感じている。ただ、なかにはあいさつができない児童がいることも数年来の課題である。これからも、児童たちと関わりながら継続して取り組んでいく必要がある。地域としても見守りやあいさつを通して児童と関わることは喜びであるので、これからもあいさつの輪を広げていきたいと思っている。

## **※特記事項**

- ・特になし